

第8期介護保険事業計画 経過

令和3年度日南町地域包括支援センター活動状況・モニタリング

1. 日南町の基本方針（スローガン）

「町民みんなで支え合って自分らしく暮らせる日南町（地域共生社会の実現）」

2. 活動の柱

(1) 地域で助け合って暮らせる生活支援体制の整備

① 地域支え愛ネットワーク構築事業の推進

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
7つのまちづくり協議会との協働 各まち協ごとに打合せ等の連携の実施	実施	実施	実施	5まち協
全戸アンケート実施	7つのまち協が3年間に1回以上の実施			3まち協
33自治会との協働 支え愛マップ作成	全自治会	全自治会	全自治会	27自治会
支え愛連絡会	15自治会	20自治会	25自治会	4
学習会の開催	10自治会	10自治会	10自治会	
関係機関との連携 総務課(防災担当)、社協との打合せ会	月1回	月1回	月1回	月1回
居宅介護支援事業所(追加)				4回
生山消防署(追加)				1回
県(危機管理課)、県社協との打合せ会	年1回	年1回	年1回	3月コロナで中止

- ・支え愛マップ、避難行動要支援者名簿の作成は、多里、福栄、阿毘縁、大宮、山上地域で定着してきた。
- ・社協の補助金対応で学習会の開催計画があり、総務課防災専門員による学習会が多い。
- ・令和3年度は警戒情報の表示の変更あり、ラミネートパンフレット「災害から生命を守る」も変更内容を掲載し全世帯に再発行した。再発行の内容について、自分の家が土砂災害警戒地域に入るかの意識啓発のための表示した。障がい者にもわかりやすいようにフリガナを表示した。
- ・自主避難所の見直しを行い、変更が2か所あった。
- ・多里支え愛ネットワークでは多里支え愛部が各家のハザードマップ情報を調べて(防災専門員の協力あり)印をつけて配布された。阿毘縁、福栄、福寿実も役員が印をつけて配布された。
- ・居宅支援事業所と打合せし、ケアプラン更新時に災害時の避難について記入してもらうことを確認した。
- ・住民参加の支え愛ネットワーク活動による支え愛マップ作成、避難行動要支援者名簿(地域)の作成、避難行動計画(個別)作成の推進を目指すことを、町防災専門員、町社協(生活支援コーディネーター)、福祉保健課・包括で打ち合わせた。
- ・多里支え愛ネットワークでは多里支え愛部が各家のハザードマップ情報を調べて(防災専門員の協力あり)印をつけて配布された。
- ・居宅支援事業所と打合せし、ケアプラン更新時に災害時の避難について記入してもらうことを確認した。
- ・支え愛マップ作成とともに避難行動要支援者名簿(地域)の作成、避難行動計画(個別)の作成ができることを令和3年度の支え愛ネットワーク構築事業の目標とすることを町防災専門員、町社協(生活支援コーディネーター)、福祉保健課・包括で打ち合わせた。

② 地域で支え合える仕組みをつくる

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
見守り連絡会の実施	2つの	3つの	4つの	1つの まち協
見守り生活支援サービス実施 訪問型サービスB実施	まち協	まち協	まち協	
救急医療情報キットの設置				更新中
65歳以上一人暮らし世帯	70%	80%	90%	
75歳以上高齢者夫婦	80%	90%	100%	
生活支援ボランティア活動	2つの	3つの	4つの	3つのまち協 4会場
まちづくり協議会単位で交流会	まち協	まち協	まち協	

- ・1月に福栄地域で見守り連絡会を実施し、地域で見守り活動を行う民生委員、集落支援員、住民主体通所型サービス運営事業代表者、包括、社協の他、令和3年度は新たに介護支援専門員の参加があった。
- ・ご近所サポーター養成講座(国診協モデル事業)を阿毘縁、福栄、多里地域では地域振興センターで開催した。支え愛ネットワーク役員、住民主体通所型サービス運営事業代表者、生活支援ボランティア登録者に案内し地域内の交流の機会ができた。
- ・見守り生活支援サービス・訪問型サービスBの取り組みに向けて、福栄支え愛ネットワーク役員会で協議し、来年度の全戸アンケートの中に生活の困りごと、困りごとに対して支援を受ける意向や支援を行う意向を入れて実態把握する方向となった。
- ・支え愛ネットワーク役員会、ご近所サポーター養成講座で高齢者の6つの生活課題を紹介し、高齢者の生活課題を踏まえた地域活動となるように浸透を図った。
- ・地域の防災学習会で緊急キットの周知を図っている。

(2) 高齢者の社会参加と健康づくり・介護予防の推進

① 高齢者の生きがいのある健康づくり

ア. 生きがい・目標を持てる

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
住民主体通所型サービス(集いの場)での目標づくり実施	全会場	全会場	全会場	0
チェックリスト等を活用した自己評価支援	全会場	全会場	全会場	44会場

- ・新型コロナウイルス感染症対策による住民主体通所型サービス(以下「集い」という。)の時間短縮や休止期間が多くあり、目標づくりとして包括職員が参加することができなかった。

イ. 運動による健康づくり

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
通所型サービスCの利用者数	45人 (実12人)	45人 (実12人)	45人 (実12人)	4人 1人
通所型サービスC終了後の移行先の把握	100%	100%	100%	100%
いきいき百歳体操を実施する「集いの場」の65歳以上参加率	30%	30%	30%	24%

理学療法士等による 体力測定の実施	全会場	全会場	全会場	0
必要者の個別指導	実施	実施	実施	0
個別評価の実施				
体操による効果の事業評価	実施	実施	実施	実施
週1回以上の運動習慣がある高齢者の割合(高齢者の質問票)	65%	65%	65%	

- ・ご近所サポーター養成講座でフレイル予防目的で「運動」講座を実施した。関心が高かった。
- ・令和3年度にチェックリストの聞き取りを実施し、令和元年度、2年度との比較から、集いの開催は、運動機能の低下予防と物忘れ予防に効果があることが検証できた。

#### ウ. 食事による健康づくり

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
栄養バランスを考えて食べている人の割合(ニーズ調査)	—	—	70%	—
「食のつながり帳」の配布・改訂を行う	配布	改訂	配布	配布

- ・ご近所サポーター養成講座で「食事について」簡単なレシピの紹介などの希望があり、関心が高かった。
- ・令和3年度に「食のつながり帳」の配布と改訂版を作成した。

#### エ. 口腔ケアによる健康づくり

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
かみかみ百歳体操を取り入れている「集いの場」の会場	7会場	10会場	10会場	19会場
口腔機能指導実施日数	9日	9日	9日	9日
65歳以上の相談者	85人	85人	90人	17人
定期的に歯科受診(健診を含む)をしている人の割合(ニーズ調査)	—	—	30%	—

- ・令和3年度の「集い」の実績報告で「かみかみ体操」の実施は19会場であった。
- ・住民健診(10日)の中で口腔機能指導が実施されている。
- ・ご近所サポーター養成講座でフレイル予防目的で「口腔機能向上」講座を実施した。

#### オ. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮した介護予防の取り組みの推進(目標値設定なし)

- ・住民主体通所型サービスの補助金を活用し、感染症対策用品の購入を周知した。
- ・ご近所サポーター養成講座で「感染予防」講座を実施した。開催会場を4会場に分散して実施した。  
ご近所サポーター養成講座参加者へ感染予防グッズ(マスク、手指消毒スプレー・シート)を配布し活用して訪問をするように依頼した。
- ・今年度は生活支援コーディネーター(町社協委託)が「集い」会場に訪問し、コロナ禍での運動や交流の機会の減少などについてのアンケートを実施し、参加者する高齢者の状況把握を図る。今後のコロナ禍での介護予防・フレイル予防対策の検討材料とする。

カ. 生活習慣病予防・介護予防の普及啓発

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
「集いの場」での健康相談を実施	全団体	全団体	全団体
出前講座隊	100回	100回	100回
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施	—	—	実施

令和3年 12月
0
10回
—

- ・目標づくりと同じく、新型コロナウイルス感染症対策(以下、「コロナ対策」と記載する。)により保健師による健康相談の実施はできなかった。
- ・ご近所サポーター養成講座でフレイル予防のための講座を実施し、ご近所サポーターの訪問による介護予防の実践を啓発した。

キ. 事業対象者・要支援者の重度化予防

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
介護予防手帳の配布	100%	100%	100%
サービス未利用者の状況把握	100%	100%	100%

令和3年 12月
100%

- ・事業対象者・要支援者の重症化予防を図るためにDVD「日南町通所サービス啓発動画(仮)」を作成し、通所型サービスの利用の促進を図る。令和3年度末に完成予定で、完成後はテレビ等で放映する。

ク. 現役世代・若いうちからのお互い様の意識づくり

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
現役世代も含めた生活支援ボランティア養成	年1回	年1回	年1回
65歳未満の生活支援ボランティア登録者	20人	22人	25人
65歳未満の「集いの場」参加者	10人	15人	20人

令和3年 12月
年1回
15人
22人

- ・小学4年生、中学2年生、日野高校生に認知症サポーター養成講座を実施した。小学4年生は高齢者体験やノルデックウォークで高齢者と交流も行き、「地域住民のお互い様」の意識づくりを図った。
- ・ご近所サポーター養成講座(国診協モデル事業)では参加者の約半数が60歳代だった。

ケ. みんなとかかわりを持って楽しく暮らす

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
月に1回以上趣味関係のグループに参加している(ニーズ調査)	—	—	10%
月に1回以上介護予防のための通いの場に参加している(ニーズ調査)	—	—	35%
あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる(ニーズ調査)	—	—	90%

令和3年 12月
—
—
—

② 社会参加・気軽に集える居場所支援

ア. みんなとかかわりを持って楽しく暮らす(社会交流)

(目標値設定なし)

- ・「集い」実施のために包括や生活支援コーディネーターの訪問、感染症対策の啓発チラシの送付などの支援を実施した。

・コロナ対策により、「集い」の休止など集まりができにくく、交流が減少している。閉じこもりなどで虚弱になりやすい高齢者のフレイル予防と交流目的の「ご近所サポーター養成講座(国診協モデル事業)」の開催を行った。「集い」代表者他に案内した。参加した「集い」代表者より心配な人への声掛けや、「集い」でも講習内容を伝達したとの声があった。

イ. 気軽にボランティアに参加できる

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
生活支援ボランティア養成	年1回 10人	年1回 10人	年1回 10人	年1回 37人
生活支援ボランティア登録者	100人	105人	110人	93人
生活支援ボランティア 30時間以上活動者	20人	20人	20人	
生活支援ボランティア スキルアップ研修会	年1回	年1回	年1回	年1回 (34人)

- ・令和3年度はご近所サポーター養成講座を生活支援ボランティア講座(養成、スキルアップ研修会)の代替として実施した。  
阿毘緑地域を対象地域として、ご近所サポーター養成講座を住民に各戸配布で周知した。
- ・令和3年度はご近所サポーター養成講座に3回以上講座に参加した人へ生活支援支援ボランティア登録を可能とした。

③ 保健・医療など多方面と連携した介護予防

ア. 専門職と連携した介護予防・重症化予防

- ・在宅支援会議で日南病院、日南薬局、日南福祉会と在宅療養者の状況把握を共有している。特に、退院後の生活状況、サービス利用中断者の様子の把握に努めて重症化予防につなげた。

イ. 服薬支援

- ・在宅支援会議で服薬支援の必要な人への対応の情報共有は継続して行っている。
- ・支え愛ネットワーク活動やご近所サポーター養成講座で高齢者の生活課題を紹介し、服薬が正しく飲めないことが体調不良を引き起こし、家での生活の継続が難しくなるきっかけとなっていることを周知した。

④ 生活を支える体制整備(介護予防・日常生活支援総合事業)

ア. 地縁組織や関係団体と連携した見守りがある安心できる地域づくり

- ・支え愛ネットワーク活動やご近所サポーター養成講座で高齢者の生活課題を紹介し、離れて暮らす家族への支援(パンフレット)の紹介で、見守りなど実施しているサービスや関係者を紹介している。

生活支援コーディネーターとの連携

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
生活支援コーディネーター打合せ会	月1回	月1回	月1回	月1回

イ. 外出支援の開発

- ・近年、外出支援の視察が行われているまち協が複数あり、まち協、企画課(公共交通)とも協議していくこととした。

・包括と生活支援コーディネーターが「いきがいサミット」(WEB研修)に参加し、他地域の外出支援の状況から、生活支援コーディネーターと包括の打ち合わせ(月1回)で日南町の今後の取り組みを検討した。

訪問型サービスD実施事業所

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
訪問型サービスD実施事業者	1事業所	2事業所	2事業所

令和3年 12月
0

ウ. 生活支援・介護予防体制整備推進協議会の実施

- ・移動支援について協議体の実施に向けて検討していたが、コロナ(第6波)対策のため延期(令和4年度予定)とした。
- ・ご近所サポーター養成を健康福祉センター、阿毘縁・多里・福栄地域振興センターの4会場で実施した。阿毘縁・多里・福栄会場では地域内で活動する人(民生委員、支え愛ネットワーク役員、生活支援ボランティア登録者、「集い」の代表者等)の交流の場となった。4会場を結んだWEB開催により他地域の具体的な取り組みを知り、自分の地域活動の参考とする機会となった。

生活支援・介護予防体制整備推進協議体

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
生活支援・介護予防体制整備推進協議会	1回	1回	1回

令和3年 12月
0回

(3) 自分や家族が認知症になっても大丈夫だと思える地域づくり【認知症施策の推進】

① 認知症への理解を深める

取 り 組 み の 内 容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ア)認知症サポーターを養成する(累計)	20回 230人 (2,100人)	20回 230人 (2,250人)	20回 230人 (2,400人)
・住 民	15回 150人	15回 150人	15回 150人
・町内事業所	2回 20人	2回 20人	2回 20人
・高校生(日野高校)	1回 10人	1回 10人	1回 10人
・中学生(日南中学校)	1回 30人	1回 30人	1回 30人
・小学生(日南小学校)	1回 20人	1回 20人	1回 20人
イ)出前講座での啓発	15回	15回	15回
ウ)地域包括ケアシンポジウムで啓発を行う	1回	1回	1回
エ)広報にちなんで漫画による啓発を行う	作成2部 掲載2回	作成2部 掲載2回	作成2部 掲載2回
オ)住民への普及啓発活動を認知症当事者の声を踏まえながら実施する	実施	実施	実施

令和3年 12月
3回 51人
0回 0人
未実施
1回 2人
1回 22人
1回 27人
2回
映画上映・ミニ講話 1回
作成0部 掲載1回
実施

- ・認知症サポーター養成講座については、コロナ禍のため、住民・事業所を対象としての講座は、開催をみあわせている。日野高校では9月6日に開催したが、出席停止等の影響があり、受講者は2名だった。小学校4年生では10月20日に2時限、中学校2年生では12月23日に1時限を担当させて頂き実施した。
- ・地域包括ケアシンポジウムは、ACP(人生会議)のテーマで開催予定のため、R3年度は、「認知症啓発映画『ケアニンところに咲く花』上映会・ミニ講話」として開催した。10月30日(土)13:00～と17:30～の2回上映した。昼の部114人、夜の部10人、スタッフ16人の計140人が視聴した。  
今回は「認知症になっても何もわからなくなるわけではなく、感情や思いは継続していること」、「その人の歴史を知り、願いに沿った支援が大切であること」「そのためには、歴史や思いや願いがわかるように、書いたり家族と共有しておくことが大切」ということを伝えるよう努めた。  
特養あかねの郷、グループホームあさひの郷、訪問看護、もしもの時の幸せノート等の取り組みを映画とあわせて紹介することができた。ACPの取り組み等に繋げていきたい。
- ・広報にちなんへの認知症啓発漫画の掲載は2回を予定しており、1回目はR4年1月に掲載した。
- ・コロナ禍で啓発活動は自粛しているが、実施する場合には、認知症当事者の声をDVD等で紹介するよう心がけた。

② 認知症の予防、早期発見・早期対応を図る

取 り 組 み の 内 容	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
ア)認知症についての相談窓口を周知する			(ニーズ調査)	
・住民の認知度	—	—	60%	—
・関係者の認知度	90%	90%	90%	3月調査予定
イ)認知症についての相談に対応する(包括)	実70人	実70人	実70人	年度末に集計
ウ)物忘れタッチパネルを実施する	計120人	計120人	計120人	
・住民検診会場	9回 100人	9回 100人	9回 100人	8回 20人
・出前講座	1回 20人	1回 20人	1回 20人	0回 0人
エ)基本チェックリストの認知症項目から把握する	実施	実施	実施	未実施
・つどいの場 後期高齢者の検診	720人 200人	720人 200人	720人 200人	未把握 未把握
・ニーズ調査	—	—	1,300人	—
オ)つどいの参加率	30%	30%	30%	24%
カ)週1回以上の運動習慣がある高齢者の割合	65%	65%	65%	未把握
キ)専門医による個別相談会を行う	年 5回 実10人 延10人	年 5回 実10人 延10人	年 5回 実10人 延10人	3回 実3人 延3人
ク)認知症初期集中支援チーム員会議を行う	年5回	年5回	年5回	4回
・医療・介護サービスにつながった人	100%	100%	100%	100%

- ・認知症相談窓口の周知を心がけた。評価はR4年度実施の高齢者ニーズ調査結果により行う。関係者の認知度調査は、令和4年3月に行う予定。
- ・認知症に関する相談件数は、年度末に集計を行う。
- ・もの忘れタッチパネルは、検診会場で行った。コロナ問診終了後に短時間で実施している。12月末までに8回20人に実施。この結果からの受診勧奨者は0人だった。検査は敬遠されることが多く、認知症ケアパスを渡し、相談窓口の周知と知識の普及に努めた。
- ・基本チェックリストからの認知症状がある人の把握は、前期は未実施。後期に実施予定。
- ・つどいは、コロナ禍で中止要請をした期間が数か月あった。

### ③ 認知症地域支援・ケアの向上を推進する

取 り 組 み の 内 容	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
ア) 認知症初期集中支援チーム員の研修を行う	年1回	年1回	年1回	1回
イ) 認知症作業部会を開催する(日南病院、日南福祉会、地域包括支援センター)	年12回	年12回	年12回	13回
ウ) 関係職員へ認知症の研修を行う	年2回	年2回	年2回	1回
・4団体向けの認知症研修に意思決定支援に関するプログラムを導入する	1回	1回	1回	1回

- ・チーム員の研修は、認知症作業部会の中で、後半に2回の事例検討会を予定している。
- ・認知症作業部会は月1回開催している。6月には映画上映検討のため1回追加して開催した。
- ・関係職員向け研修は、12月17日に実施した(認知症と自動車運転)。
- ・意思決定支援に関する研修は、ACPをテーマとしたミニシンポジウムが10月20日に開催されこれに参加した。
- ・認知症施策作業部会では、「本人の意思を尊重すること」と「尊厳を保ち安全に暮らす」ことをどう実現するか困難と葛藤があること、家族を含め関係者が状況を共有することにより介護支援専門員の負担が過大にならないよう本人支援をすすめることが大切である。ACPと同様に、話し合いを継続することが重要であると確認した。
- ・認知症施策作業部会では、認知症がある人の在宅支援としてショートステイは有効であるが、町内では希望通りの受け入れが難しい状況があることについて、改善のための方策を検討した。

### ④ 認知症の人の支援体制を整える

取 り 組 み の 内 容	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 12月
ア) 認知症ケアパスを活用する	70件	70件	70件	3件
イ) 家族介護者交流会を開催する	年12回 実10人 延35人	年12回 実10人 延35人	年12回 実10人 延35人	6回 実4人 延13人

ウ)認知症カフェ～ねえ・きいて～を開催する ・中央と地域で開催する  ・当事者の参加を促す(再掲)	【開催場所】 3か所 年36回 実10人 延84人 (実1人) (延12人)	【開催場所】 3か所 年36回 実10人 延84人 (実1人) (延12人)	【開催場所】 3か所 年36回 実10人 延84人 (実1人) (延12人)	2か所 6回、6回 14人、11人 20人、46人 (実1人) (延6人)
エ)高齢者等見守りネットワーク事前登録制度を普及する	2人 (新1人)	3人 (新1人)	4人 (新1人)	4人 (新1人)
オ)地域でのネットワーク活動で啓発する(合計)	2回 20人	2回 20人	2回 20人	0回 0人
・まちづくり協議会と協働して研修会を行う	1回 10人	1回 10人	1回 10人	ご近所サポーター 71人
・自治会と協働して研修会を行う	1回 10人	1回 10人	1回 10人	0回 0人
・つどいと協働してチームオレンジの活動につなげる	活動を実施	活動を実施	活動を実施	未実施
カ)成年後見制度の利用を促進する				
・啓発実施回数	1回	1回	1回	0回
・成年後見制度研修受講者数	20人	20人	20人	0人
・市民後見人養成講座受講者数	3人	3人	3人	1人

- ・認知症ケアパスは、自立支援検討会、個別相談、訪問などで、使用するよう心がけた。
- ・家族介護者の交流会は、「認知症の人と家族の会」相談員、認知症サポーターの協力を得て、月に1回開催している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4回(4、7、8、2月)中止した。現在、参加者は少ないが、気軽に相談ができる場として継続していきたい。
- ・認知症カフェとして「オレンジカフェ～ねえ・きいて～」を、パセオ内無料休憩所と多里桜ヶ瀬会館でそれぞれ月1回開催している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各5回(5、8、9、2、3月)中止した。参加者が少ない回もあるが、気軽に相談できる場として継続していきたい。他の地域でも開催ができるよう、検討していきたい。

#### (4) 人生の最期まで生きがいと尊厳を持って暮らせる体制整備と意識啓発

- ① 成年後見制度等の利用を促進するための周知・啓発を行う
  - ・コロナウイルスの感染状況等で現在のところ周知・啓発ができていない。関係者間で周知をはかる。
- ② 権利擁護支援の地域連携ネットワークづくりと担い手の確保に努める
  - ・西部圏域で開催される市民後見人養成講座への参加者について日南町社会福祉協議会と情報共有し、担い手確保に努めている。
- ③ 利用者に寄り添った成年後見制度の運用を進める
  - ・財産管理や身上監護が必要な利用者に対し、制度利用に必要な情報提供等を行っている。
- ④ 高齢者虐待の防止及び早期発見を図り支援につなげる
  - ・民生児童委員、在宅支援会議、町内の事業所からの情報を得て早期発見と早期終結に努めている。

- ⑤ 人生の最期まで自分らしく暮らす意識を持ち、周りの人がそれを応援する意識をもつための啓発を行う

人生の最期まで生きがいと尊厳を持って暮らせる体制整備と意識啓発

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 中間
成年後見制度研修会の開催	1回	1回	1回	0回
シンポジウムの開催	1回	1回	1回	0回
出前講座隊による啓発	12回	12回	12回	0回
市民後見人養成講座受講者数	3人	3人	3人	1人
ACP研修会の開催	1回	1回	1回	1回

・専門職を対象とした日南町4団体合同研修会『ミニシンポジウム日南町の看取りの現状と課題』を10月に開催した。

- (5) 地域で暮らし続けることができるための、在宅医療・介護連携拡充と基盤整備  
(地域包括ケアシステムの充実)

- ① 地域における在宅医療・介護の関係機関の連携拡充

地域ケア会議開催

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 10月
在宅支援会議の開催	51回	51回	51回	25回
企画会議の開催	12回	12回	12回	6回
地域包括ケア会議の開催	10回	10回	10回	3回
認知症作業部会	12回	12回	12回	
自立支援検討会				
事例検討	12回	12回	12回	8回(10月末)
研修会	3回	3回	3回	0回
事業評価	1回	1回	1回	

地域における在宅医療・介護の関係機関の連携拡充

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年 10月
つくほ連絡会の開催	6回	6回	6回	3回
入退院連絡票の作成(率)	100%	100%	100%	100%
パッと見えネットの活用(件数:実人数)	55件	60件	65件	22件
町内居宅介護支援事業所連絡会	2回	2回	2回	1回
日野郡地域リハビリテーション連絡協議会及び介護支援専門員等意見交流会	1回	1回	1回	0回
西部圏域在宅医療・介護連携に係る意見交換会	12回	12回	12回	2回
医療介護連携体制の構築に係る調整会議(西部福祉保健局主催)	1回	1回	1回	0回

・在宅支援会議はコロナ禍でありリモート会議で通年、開催した。地域包括ケア会議、企画会議、認知症作業部会もコロナ感染拡大時期はリモート会議を取り入れて、通年、開催した。

・コロナ禍のため自立支援検討会の7月の研修会(ヤングケアラーの研修内容)は中止とした。

② 地域住民（地域活動）と医療・介護・福祉専門職の連携

地域住民（地域活動）と医療・介護・福祉専門職の連携

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
地域包括ケアシンポジウムの開催回数	1回	1回	1回

令和3年 10月
1回(ミニシンポ)

- ・避難行動への支援について介護支援専門員のケアプランに掲載していることを地域の防災活動へ周知していく。福栄地域見守り連絡会に初めて介護支援専門員も参加した。
- ・ご近所サポーター養成講座を日南病院、包括と阿毘縁・多里・福栄支え愛ネットワーク活動が協力して、開催した。
- ・「高齢者の夢をかなえるプロジェクト」で生活支援ボランティアと関係スタッフが有料老人ホーム「つくほ」の荒れ地を活用し野菜を作り、つくほ入居者の食材として活用できた。過程の中で「つくほ」入居者とも育てる野菜の希望を聞いたり、野菜の成長具合の見守りなど交流して行った。

③ 高齢者向け住まいの整備

- ・特別養護老人ホームあかねの郷内に(あかねの郷高齢者生活支援サービス)あかね荘(宿泊施設10室)が開所された。令和4年1月は冬季入所もあり、満室となった。
- ・有料老人ホームつくほは令和3年度は満室で、入退去も少なかった。

④ 必要な医療・介護サービスが利用できる体制整備

必要な医療・介護サービスが利用できる体制整備

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
介護福祉人材育成奨学金制度の利用(件数)	1件	1件	1件
介護福祉人材就職支度金貸与事業の利用(件数)	1件	1件	1件

令和3年 10月
0件
0件

- ・介護福祉人材育成奨学金貸与事業、介護福祉人材就職支度金貸与事業を実施しているが、応募が少ない。介護福祉人材就職支度金貸与事業を活用した者が5年未満の退職となっている。
- ・関係スタッフの資質向上及び日南町で働く意欲向上(離職防止)のために「高齢者の夢をかなえるプロジェクト」の実施を検討している。実施に向けたクラウドファンディング利用のために、有料老人ホーム「つくほ」の荒れ地を耕し野菜収穫し「つくほ」の食材として提供した過程を記録した。

家族介護教室

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
家族介護教室開催回数	3回	3回	3回

令和3年 12月
0回

家族介護者交流事業

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
家族介護者交流事業開催回数	1回	1回	1回

令和3年 12月
0回

- ・家族介護者教室、家族介護者交流事業を日南福祉会に委託しているが、新型コロナウイルス感染症対策により開催が難しかった。

